



忘れられない あの日…

3.25 能登半島地震



3.11 東日本大震災

あの震災から学ぶこと ～自助・共助・公助～

能登半島地震から6年 東日本大震災から2年

いつ発生するかわからない自然災害 あなたの備えは…

もうすぐ能登半島地震から6年。東日本大震災から2年が経過。東日本大震災では、これまでに日本人が経験したことがない大きな被害をもたらしました。

七尾市は、過去の震災などの経験から、県内外の自治体や各種団体、民間企業との防災協定などを締結。また、緊急防災情報告知システム整備や避難場所・避難施設の見直し、津波ハザードマップの作成や津波避難ビルの指定、非常食の備蓄など、災害に強いまちづくりを進めています。

しかし、大規模な災害が発生したとき、国や県、市の対応（公助）だけでは限界があります。早期に実効性がある対策を行うことが難しい場合も考えられます。

今後、こういったことが想定される中で、自分の身は自分で守ることを基本に、日ごろから避難準備などをしておくことが必要（自助）。そして、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まり、自主防災組織を作り、お互いに協力し合いながら防災活動を組織的に取り組むこと（共助）が大切です。

地域の皆さんに「自助」「共助」「公助」の役割を考えていただき、自主防災組織づくりや、地域の被害軽減を図ることができる防災訓練など、これから取り組むことができる機会になればと思います。

自助

—ほかの力に依存せず、独力で事をなすこと—

まずは、自分や家族の命を守ること。自分が助かれば、人を助けることができます。災害に備えて、「今」できることは何かを考えてみましょう。

家具の転倒防止

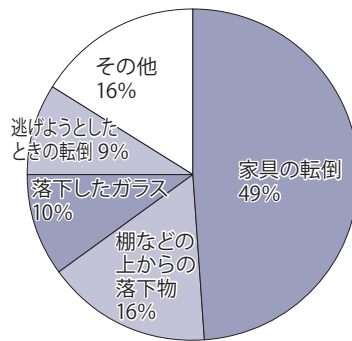


転倒した家具の下敷きになったことが原因でけがをしたり、室内が散乱することによって逃げ遅れたりする場合があります。次の円グラフのように、阪神・淡路大震災では、約半数の人が家具の転倒でけがをしています。

家庭での被害を防ぎ、安全な逃げ道を確認するためにも、家具の転倒・落下防止対策を実践しておきましょう。

- ・収納に工夫を…重いものは、下のほうに収納することで、家具の安定が図られます。
- ・置き方に工夫を…家具などの下部前方に板などを入れ、壁にもたれぎみにすることにより、家具の前方転倒を防ぐことができます。
- ・転倒防止金具の利用を…転倒防止金具を設置することにより、家具の転倒を防止することができます。

阪神・淡路大震災でけがをした人の原因



非常持ち出し袋を準備

非常持出品は家族構成を考え、必要な分だけを用意し、災害で避難するときには、すぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。

—非常持出品—

懐中電灯、携帯ラジオ、非常食・飲料水、救急医薬品、軍手、タオル、ライターなど



共助

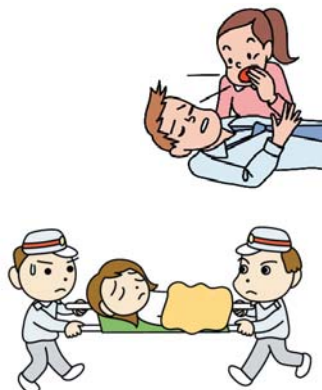
—お互いに力を合わせて、助け合うこと—

地域で助け合う関係づくりが大切です。まずは、皆さんが住んでいる地域を知ることです。日ごろから住民同士のコミュニケーションを大切にし、もしものときに助け合う体制を作りましょう。

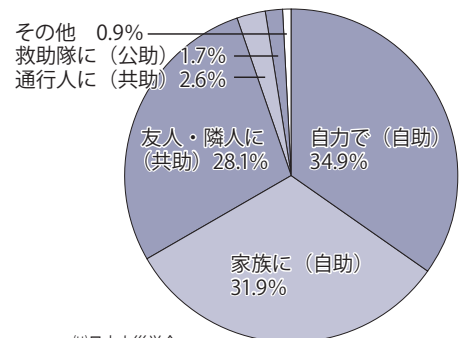
また、普段から顔を合わせている近所の人々や、地域の人々が集まり、お互いに協力し合う防災活動を積極的に取り組むことが必要です。

多くの犠牲者が出た阪神・淡路大震災の経験から、普段の近隣や

地域社会とのつながり、結びつきが極めて重要であることを再認識しました。



生き埋めや倒壊した家屋に閉じ込められた際の救助



財団法人日本防災学会：「兵庫県西南部地震における火災に関する調査報告書」より